

日本海水学会第13回若手の集いを終えて

神奈川工科大学 市村重俊

若手会主催の「第13回若手の集い」を年會前日の6月5日(水)に開催しました。今回は、甲府駅から徒歩15分程にある山梨大学の施設見学(機器分析センターとクリスタル科学研究センター)と懇親会を企画しました。

当日は、山梨大学甲府キャンパスの中央東門に集合し、まず機器分析センターを訪問しました。参加者は24名でした。ここでは、新館と旧館のさまざまな分析機器を二つのグループに分かれて見学させていただきました(写真1)。走査型・透過型電子顕微鏡、X線構造解析装置、超伝導核磁気共鳴装置など、多数の機器が比較的余裕のあるスペースに設置されており、利用者の使いやすさが想像できました。最新の機器はもちろん興味深いものでしたが、現在は使われていないという古い機器に関心を示す参加者が多かったのは意外でした。また、一緒のグループになった学生さんは、授業で聞いたことはあるけど実際に見るのは初めてと言いながら説明を一生懸命にメモしていました。良い勉強になったのでしょうか?その後、徒歩で数分のところにあるクリスタル科学研究センターに移動しました。出迎えてくれたのは無機素材の開発を専門にしている田中功先生と大きな水晶(写真2)。日本で初めて人工水晶の作製に成功したのが山梨大学とのこと、その当時使用していたものと同様の装置を見ることができました。その他、半導体向けの結晶作製法や機能の評価など、非常に興味深い研究も紹介いただきました(写真3)。また、一般向けの講座で活躍しているというカラフルな結晶を見てものづくりの魅力をあらためて感じました。集合写真(写真4)は見学後にクリスタル科学研究センターの前で撮影したものです。見学会の開催にあたりご協力をいただきました両センターのみなさま、山梨大学の関係者のみなさまに心より感謝致します。

その後、甲府駅北口の「ほうとう」で有名なお店に再集合して懇親会を開催しました(写真5)。まずは若手会会長の石川匡子先生(秋田県立大学)、次に次期若手会会長の外輪健一郎先生(徳島大学)からごあいさつ



写真1 機器分析センターの見学会の様子

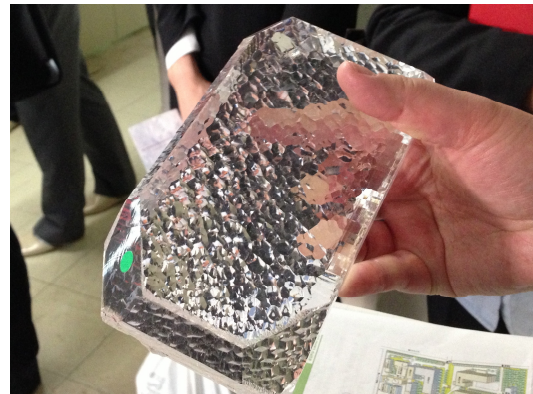


写真2 人工水晶



写真3 クリスタル科学研究センターの見学会の様子

をいただきました。肩の荷が下りたという石川先生，その気持ちは良く分かります。二年間おつかれさまでした。外輪先生にはこれから背負っていただくことになります。よろしくお願いします。乾杯の後はおいしい料理を食べながら交流を深めました。途中からは評議員の先生も合流され，海水学会会長の尾上薫先生（千葉工業大学）と次期会長の井川学先生（神奈川大学）からごあいさつをいただきました。両先生からの若手研究者・技術者、若手会への期待の言葉が非常に重く感じられました。短い時間ではありましたが，総勢36名の賑やかな会となりました。

この報告を書くのは2002年以来約10年ぶりです。その間，分野や世代の違いを少しでも取り除くことができたらと若手会の活動に関わってきました。今回，毎年の集いを楽しみにしていると声を聞き非常に嬉しく思いました（今後に向けての課題もいくつか認識できました）。次回みなさまにお会いできるのは3月の学生研究発表会でしょうか。今から楽しみです。

最後になりましたが，尾上先生には若手会の立ち上げから今日までさまざまな面でお力添えをいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。また，今回の若手の集いを実施するにあたり鈴木保任先生（山梨大学）には多大なるご協力をいただきました。ありがとうございました。



写真4 見学会後の集合写真



写真5 交流会の様子